

あいみ富有の里

平成29年 4月 3日発行
発行元
あいみ富有の里地域振興協議会
広報誌編集委員会
問い合わせ先 64-3504
fuyuuunosato@town.nanbu.tottori.jp

～広報誌 第103号～

むら・まち支え合い共生の里 原木椎茸の植菌作業で交流

中山間地域の農村と都市部住民との、農地保全活動や遊休農地を活用した農産物生産・加工品づくり等を通じて、農村の活力増進、都市部住民の農業・農村保全意識の向上を図るため「むら・まち支え合い共生の里」事業を7月24日米子市就将自治連合会と協定を調印した。

農地・農業用施設の保安全管理（畦畔の草刈、溝掘り作業）、農産物の生産（ソバの栽培、原木椎茸づくり）、農産加工品の製造・販売（ソバ粉の販売、ソバ打ち体験）、農村資源保全活動（ソバ収穫祭）を行ってきた。

今回、原木椎茸植菌（茸王115号 約100本のほど木）活動を参加者約30人で種菌を打ち込んだ。来年秋から冬にかけて肉厚の椎茸が収穫できる見込みで、青空市等で活用する予定。



＜農村＞
・労力の確保
・都市部住民と交流
・農村の魅力
・地域資源の発掘

＜都市部住民＞
・社会貢献、生き甲斐
・農作業体験
・農産加工品づくり
・農村保全意識の向上

協働作業
連携強化

むら・まち支え合い共生の里

茸王115の成長予想イメージ



路線バス存続運動



路線バスの利活用を...

第27回路線バス「御内谷線」存続委員会を3月30日(木)いこい荘で開催した。乗客者数が平成26年度までは順調に推移していたが、それ以降は減少傾向にあり、原点に立ち返り住民活動組織として、ソフト・ハード事業を一体化し運動を展開して行くことが確認された。(総務企画部)



第23回富有塾を開催

3月18日(土)高姫区在住の「門原正雄」氏を講師にし講演会を開催した。戦後70年以上が経過し、戦争体験を語る人が僅少になり、今回企画した「戦争体験～シベリア抑留を語る」の体験談は貴重なものとなった。

シベリア抑留は、「第二次世界大戦の終戦後、武装解除され投降した日本軍捕虜らが、ソ連によっておもにシベリアなどに労働力として移送隔離され、長期にわたる抑留生活と奴隷的強制労働により多数の人的被害が生じたことに対する、日本側の呼称。厳寒環境下で満足な食事や休養も与えられず・・・」(出典:フリー百科事典「ウィキペディア」)

当日は、9人の参加者があり、熱心に体験談を聞いた。

富有塾は、当地域内の人材発掘(すごい人たちがこの地域に住んでいるのだと実感してもらおう趣旨で企画)を目指す活動で、平成21年度から開催している。(総務企画部)



富有の風

団塊の世代は、国と地域の発展を願い、繁栄の礎を築いてきた。しかし70歳代を迎え、そろそろ退場の時が近くなってきた。

ところで、町内の基幹産業である米作流通が全国的に過剰になり、低価格となって久しい。コメ作農業に従事する人の年齢は概ね66歳を超え、このままで推移すれば後10年もすれば崩壊の恐れがある。

政府は価格保証をなくし、減反政策もやめ、JAを弱体化し、自由競争に付そうとしている。株式会社化、法人化・・・賀野地区にはあるのか疑わしい。(Y)



行事案内

★代表者会

日時:4月11日(火)19:00～

場所:総合福祉センターいこい荘

★評議会

日時:4月14日(金)19:00～

場所:総合福祉センターいこい荘

★富有の里春祭り

日時:4月下旬(日)11:00～14:00

場所:農産物加工施設えぷろん 未定

★まちの保健室

日時:4月27日(木)9:30～

場所:総合福祉センターいこい荘

